

頑張る

農業法人

亀岡市の観光舟として有名な「保津川下り」の乗り場がある保津町で、全農家の96%が参加し、府内最大級で、全国屈指の150社もの農地を有する農事組合法人「ほづ」。

水稲を中心に麦、大豆、小豆、ネギなどの生産や、季節ごとの菜の花、ヒマワリ、コスモスのフラワー園など多彩な取り組みを行なう。地域ぐるみの強い絆で、担い手不足を補い、農地有効活用などに取り組み姿勢が注目されている。

町内は保津川がもたらす肥沃な土壌に恵まれ、昔から農業の盛んな地域だ。一方、下流が保津峡で、川幅が急に狭くなることから、13年前に日吉がダム完成するまでは、

水害常襲地域だった。水害の都度、町内の住民は助け合って苦難を乗り越え、世代を超えた絆が築かれ、農業を守ってきた。同町では1980年に「保津町農業振興協議会」を結成し、農作業受託などに取り組んできた。そして河川改修を含む圃場整備に合わせ、2005年5月に法人を設立した。

高齢化、担い手不足が課題だったため、町内全農家349戸のうち338戸が組合加入する。現在の役員は7人で、代表理事は酒井省五さん(70)。生産受託部、総務施設部、農産物検査部の3部体制で、正職員4人とパートタイマー、アルバイトのオペレーターの57人で運営する。

設立当初は、田畑がばらばらだったが、団地化が整い、効率の良いブロッコリーテーションを水稲「保津のひかり」23

農事組合法人ほづ 亀岡市保津町



トマト畑でスタッフらと頑張る酒井代表(中央)

全国屈指の大規模営農

地域の絆強く多彩な活動を展開

小豆、小麦など、受託を含め多彩な営農活動を展開する。府立桂高校との共同で、新規品目「ほづネギ」の栽培や、地球温暖化抑制のため、炭を投入した圃場での野菜作りを行い、学校給食に提供している。さらに観光フラワー園、農業体験塾など、自治会と共に活発な村興しや、農業振興に取り組む。

一方、作付面積が増えると、オペレーターの人件費や燃料・資材費などの資金投入が大きくなるなど厳しい面もある。「利益目的の法人ではないが、補助事業を活用するなど、持続できる経営を行いたい」と酒井代表は意気込む。さらに「保津の農業を若手に委ねるまで頑張る」と抱負を語る。

▽法人の所在地 亀岡市保津町溝ノ内53▽電話 0771(22)4135